

間に得たる、哥蘭經に明かなり。萬言の哥蘭經中には、第一、神を信すべきこと、第二、人の神に對する義務、第三、人の人に對する義務を詳細に記述せり。今其の數節を摘記して、教義の存する所を明かにせんとす。

神の授くる所のものは、其の死たると、死より一層甚だしきものたるとを問はず、至善なるものなり。

神の宗教の爲めに戦へ、戦は悲むべきこと、されど神の道を妨げ、神を信せず、聖堂より人を追放する等のことは、神の目に向つては、尙ほ悲き事なり。神の爲めに戦死せし人は、不死にして樂園の鳥と爲る。

死を恐るゝ人よ、汝高塔の上に在りとも、死は必らず來らん。

人は死するの日、生前の行爲に就て、神の前に最後の審判を受くることを忘るべからず。

天國は美なる果實と、麗しき花と、優しき天女と、自由と幸福とを以て充さる。地獄には大熱と大寒と有り、而して悪人は永く其處に止まらざるを得ず。

宗教の基礎は清淨に在り、能き信仰は清淨の上に發露す、故に祈禱を爲さむと欲